

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：公害対策費

事業名 環境測定・監視機器等整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境エネルギー生活部 環境管理課 水環境係 電話番号：058-272-1111(内2987)

E-mail：c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,542 千円 (前年度予算額：14,234 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	14,234	0	0	0	0	0	0	0	14,234
要求額	17,542	0	0	0	0	0	0	0	17,542
決定額	17,542	0	0	0	0	0	0	0	17,542

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

環境中の大気汚染物質であるPM2.5や水質汚濁の状況を把握するため、保健環境研究所及び各保健所に測定機器を整備しているが、耐用年数を過ぎ劣化が著しいことなどから、今後の測定を支障なく行うため、更新等により整備する必要がある。

また、一定周期で付属機器の交換をしなければ、適正に測定できないだけでなく、周囲の安全性を担保できない機器もある。

年間計画による環境の常時監視測定に使用するほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案への対応に使用するため、検査体制の整備が必要である。

(2) 事業内容

大気汚染防止法第22条に基づくPM2.5の常時監視に係る分析に使用する機器及び水質汚濁防止法第15条に基づく公共用水域及び地下水の水質汚濁状況の常時監視に係る水質測定に使用する機器を整備する。

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	748	フロンガス回収処理、ECD検出器の交換
備品購入費	16,794	環境測定・監視機器等の購入
合計	17,542	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

環境分野では、検体の分析に迅速性、行政の信頼性を求められる事例が多く、そうした事例では県の試験機関での分析を優先的に行っていくことが必要であることから、保健環境研究所及び保健所で必要とする検査機器の整備を行っていく。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

環境の常時監視測定のほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案に速やかに対応できる検査体制を整備することを目標とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

各保健所等の検査体制の整備に必要な測定機器等の更新を行う事業であり、指標値を設定することが困難なため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	耐用年数が経過する等、機器の不具合や修理が困難な状況である測定機器等の購入を行った。（令和4年度購入台数5台） 必要な機器の整備により、計画に基づく公共用水域常時監視における水質検査や、事業場から排出される排水等の水質調査に速やかに対応することができた。
令和5年度	耐用年数が経過する等、機器の不具合や修理が困難な状況である測定機器等の購入を行った。（令和5年度購入台数6台） 必要な機器の整備により、計画に基づく公共用水域常時監視における水質検査や、事業場から排出される排水等の水質調査に速やかに対応することができた。
令和6年度	耐用年数が経過する等、機器の不具合や修理が困難な状況である測定機器等の購入を行った。（令和6年度購入台数5台） 必要な機器の整備により、計画に基づく公共用水域常時監視における水質検査や、事業場から排出される排水等の水質調査に速やかに対応することができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 2	年間計画による環境の常時監視測定に使用するほか、汚染発覚時などの緊急を要する事案への対応に使用しており、整備の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	機器整備等によって、必要な検査を実施することが出来ている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 1	整備する機器によっては、導入により操作による試料汚染や試料ロスを十分低減でき、高い精度が求められる項目の分析の実施が可能になるとともに、分析時間の短縮につながっている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・ 環境基準項目の追加に対応するため、測定項目等の見直しが必要となる。保健環境研究所及び保健所で使用する現有機器の老朽等がみられており、優先度が高い機器を順に整備していかなければならない。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ 検査を担当する保健環境研究所及び保健所の要望を確認し、必要な機器の整備を進めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	